

令和8年度 第1回行政改革推進委員会 会議報告書

日 時 令和8年6月8日（月） 10時00分～12時00分

場 所 岩滝保健センター 会議室1・2

出席者

委員（敬称略）

◎伊藤 伸 委員	○西川 明宏 委員	○味田 佳子 委員	錦織 晃 委員
川勝 健志 委員 (オンライン)	注) ◎会長、○会長代理		

アドバイザー

杉岡 秀紀 氏			
---------	--	--	--

事務局等

企画財政課 廣瀬課長	企画財政課 井崎課長補佐	企画財政課 井上課長補佐	企画財政課 渡邊係長
企画財政課 松本係長	企画財政課 秦主任	総務課 廣野課長補佐	

傍聴者 2名

会議の日程

1. 開会（会長挨拶）
2. 町長挨拶
3. 議題
 - （1）第3次与謝野町行政改革大綱の進捗について
 - （2）令和6年度答申について
 - （3）その他
4. 閉会（会長代理挨拶）

会議内容・主な議論と意見（テーマ別）

① 町長交代と職員の意識変化・人材確保

<町長の姿勢>

新町長の「笑顔で挨拶」「町民や議員との対話」を重視する姿勢に対し、窓口の雰囲気や職員の対応が変わりつつあると委員から評価する意見があった。

<職員不足と離職問題>

全国の自治体と同様に職員のなり手不足や中途退職者が課題となっており、特に Z 世代は「ミッション」よりも「給料」を重視する傾向があるため、待遇や初任給の引き上げ、労働環境の改善（週休 3 日制の導入など）を本気で検討すべきとの意見が出された。

<外部人材の活用>

外部専門家や民間人材（地域活性化企業人など）の登用・パラレルワークの活用、カムバック採用の仕組みづくりが提案された。

② 行政 DX・AI の活用と業務効率化

<形骸化させない向き合い方>

単にデジタルツールを導入するだけでなく、各課の業務ヒアリングを行い、前例踏襲を見直す「業務の棚卸」とセットで進める必要がある。

<目標とロードマップ>

電子申請やロゴフォームの導入などを進めつつ、業務効率化によって職員の負担を減らし、住民サービスや本来のコア業務に注力できる体制を目指す。

③ 歳入確保・歳出削減と中長期戦略

<ふるさと納税>

ポータルサイトへの手数料などを差し引いた「実質的な純増額」や流出額を把握し、中長期的な税源涵養（住民税・固定資産税の向上）を見据えた戦略が必要。

<下水道事業と都市計画税>

下水道等の維持管理費に対する一般会計からの繰出金が財政のネックとなっており、受益と負担の公平性や都市計画税の導入可能性も含めた中長期的な検討が必要との指摘があった。

<アウトソーシングの基準>

民間委託を進める一方、行政のノウハウ（人的資本）が劣化しないよう、「自前で頑張る領域」と「委託する領域」の明確な基準づくりが求められる。

④ 市民協働と若い世代の参画

<よさのみらい会議などの展開>

行政が一方的に支援するのではなく、地域や住民が自分たちでできることを考える意識づくりが評価された。

<次世代の意見反映>

高校生や、今後は小中学生も含めた若い世代の柔軟な視点を未来のまちづくりや会議に取り入れていくことが重要であると確認された。

今後の予定

7月：昨年度の諮問に対する答申のとりまとめ

9月以降：第4次与謝野町行政改革大綱に向けた本格的な議論・諮問の実施・諮問の実施